

平成29年度大規模津波防災総合訓練

地震による大規模津波の被害軽減を目指すとともに、津波に対する知識の普及・啓発を図るため、「津波防災の日」「世界津波の日」(11月5日)にあわせ、大規模津波防災総合訓練を実施しました。

大規模津波防災総合訓練は、平成16年12月に発生したスマトラ沖大地震を契機に始まり、12回目の今年は南海トラフ大地震により九州最大の津波被害が想定されている宮崎県を会場に実施しました。

訓練では、宮崎港湾・空港整備事務所等による港湾施設の被害調査訓練や、航行船舶の沈降物確認訓練及び航路啓開訓練、宮崎港へ流出した油の防除訓練等を実施しました。また、「世界津波の日」の趣旨を踏まえ、宮崎港の避難高台「命の丘」を使った避難訓練には、海外からの政府関係者(JICA)や外国人留学生が参加するなど、国際的な普及・啓発のための取組も実施しました。

■開催日時 平成29年11月3日(金) 8:45~12:00

■実施場所 宮崎港東地区13号岸壁(メイン会場)他

港湾施設被害調査訓練

・この調査は緊急支援物資の受入拠点となる岸壁が、利用できるかどうか調べるために実施されたものです。



港湾施設点検班長から班員へ岸壁の点検指示状況



岸壁が海側に倒れ込みがないか測量中



岸壁(水中部)の土台や本体に損傷がないか潜水士により点検中



岸壁の危険箇所に立入禁止バリケードを設置中

沈降物確認訓練

- ・津波来襲時に、津波の引き波により車やコンテナなど、多くの物が海底に流されます。
- ・緊急物資を運ぶ船舶の妨げになる沈降物を確認するため「がんりゅう」による訓練を実施したものです。



九州地方整備局所有船「がんりゅう」による沈降物確認状況

航路啓開訓練

- ・津波来襲時に、津波の引き波により車やコンテナなど、多くの物が海底に流されます。
- ・「がんりゅう」の調査により、航行船舶の障害となる沈降物が発見されたことを受け、九州地方整備局及び宮崎県と災害協定を結んでいる災害協定団体所有の起重機船により、沈降物の引き揚げ訓練を実施したものです。



災害協定団体所有船「第八幸洋」による沈降物引き揚げ状況

油防除訓練

- ・津波来襲や事故により油が海面上に流出した想定で油を防除する訓練を実施したものです。
- ・「海翔丸」は油回収装置の集油ジェットにより海水を噴射して水の壁を作り、油を集めながら回収しました。
- ・「がんりゅう」は放水銃により油の攪拌を実施しました。なお、「がんりゅう」は船体の後方に装備している油回収器による回収も行うことができます。（放水攪拌は、油を海中に拡散・分散させ自然浄化を促すために行います。）



九州地方整備局所有船「海翔丸」による油回収状況



九州地方整備局所有船「がんりゅう」による放水攪拌状況

応急給水訓練

- ・船舶を使用し、被災者の方々への給水を行う訓練を実施したものです。



九州地方整備局所有船「がんりゅう」による応急給水支援状況